· 学校法人越原学園 ·

地域連携 NEWSLETTER 2

卷頭言

家政学部長 白井靖敏

平成24年の中央教育審議会の答申のなかで、「(学生の) 学修意 欲を高めて主体的な学修を確立」させるために、様々な方策を取るべきと示されました。特に、「学士力」を育むためには、ディスカッションやディベートといったアクティブな授業や教室外学修プログラムによる主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換が必要とされています。総合科学研究所が中心となって取り組んでいる地域連携型の学びは、まさに大学で学んだ知識や技術を広く地域に貢献し、学習を通してジェネリックスキルズ等を獲得することのできる実践的な学びと言えます。こうした地域連携型の学びのひとつとしてサービスラーニングが注目されています。サービスラーニングは、大学で学んだ知識や技術を社会的活動に生かすことを通して市民的責任や社会的役割を感じ、実践力を養うことを目的とした教育方法です。その原点は、アメリカで経験学習として発展した教育形態であり、今や、全米950以上の大学でサービスラーニングが取り組まれています。本学においても、短期大学部が平成25年4月か

ら正課の授業として「地域貢献演習」を導入し、着実に成果を上げています。また、家政学部においても、食物栄養学科が平成30年度に「とこなめ焼共同組合」と協定して、急須で入れたお茶の科学的な検証などを通し、PBL(Project Based Learning)として学修の質を高めています。一方で、総合科学研究所機関研究の授業改善プロジェクトの一環である「学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発」(平成27-29)のなかで見えてきた学生の実態として、①学生の主体性が決して高いとはいえず受け身的な傾向がある。②学生は講義形式の授業を望んでおり、課題発見や解決をする学習過程を自分自身ではなく教員等他者に任せたいと考えている傾向が強い。③グループワーク等の授業の希望は少なく、アクティブラーニングの必要性をあまり理解・認識していないことから、今後、地域企業や諸団体と連携協定を結び、より深い学びとしてのPBL等の地域連携型の教育を推進していく必要を強く感じます。

総合科学研究所

平成30年8月22日(水)実施

育休復帰応援講座

総合科学研究所が推進する「開かれた地域貢献事業」に、新たに名古屋市瑞穂区役所との連携事業がスタートしました。昨年度の瑞穂区役所との協定締結を受け、瑞穂区内の働く女性の支援を目的としたイベント開催を計画し、本年度、第1回目となる連携事業「育休復帰応援講座 時短レシピでクッキング!」が開催されました。

8月22日午前、名古屋女子大学調理室において、調理時間の短縮につながる 講義と、実際に献立を示して参加者全員で調理実習を行いました。実習後には、 瑞穂区役所担当者から保育園入園申請手続きに関する案内など、職場復帰に備え る情報提供が行われました。また、別室で託児体制をとり、参加者同士がゆっく りと過ごし良い交流の場が提供できました。

今後とも、地域の方々と触れ合う機会を多くご提供し楽しんでもらい、瑞穂区 役所を含めた各公共施設との連携を図る事業を計画、推進すべく、取り組んでま いります。

(文責: 森屋裕治)







調理の様子

○ 短期大学部

平成31年3月発行

さくらスイーツマップ

短期大学部生活学科1年生12名が、瑞穂区地域力推進室と協力し「さくらスイーツマップ」の作成をするために、手分けして瑞穂区内を歩きました。さくらを素材にしたスイーツを販売している店舗を調査し、「さくらスイーツマップ」の企画についてお店の方に説明したり、地図に記載できるようなランドマークを調査したりしました。普段何気なく歩いている道も視点を変えれば発見することが多くあり、瑞穂区の魅力を再認識することができました。

(文責:箕浦恵美子)

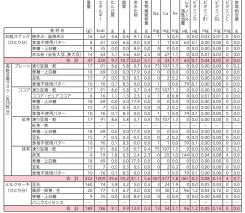


完成したさくらスイーツマップと学生たち

瑞穂区社会福祉協議会 「瑞穂福祉会館 健康まつり」

本事業は地域在住高齢者の方を対象にオーダーメイドな支援をしていくことを目的に平成30年6月18日(月)瑞穂福祉会館にて開催されました。本学には「お楽しみ試食コーナー」で提供される低栄養を予防するための料理レシピ監修の依頼があり、5品のレシピ作成を考案した後、参加希望のあった学生と一緒に試作と試食を行いました。当日は「お麩スナック」「高野豆腐ラスク」「ミルクセーキ」の3品が提供されました。

(文責:横山弥枝)



低栄養おかしレシピ

文学部

5/19~12/2(計4回)実施

瑞穂区子ども会 「年少リーダー講習会」 ボランティア

平成29年度と平成30年度に、瑞穂区子ども会が主催している年少リーダー講習会へ、児童教育学科の学生がボランティアで、講習会のサポートを行いました。年少リーダー講習会は瑞穂区の児童の中で、野外活動やイベントで活躍できるスキルと経験を身に付けて、各小学校でリーダーとなってもらうための講習会として行われています。この会に賛同し、ボランティアとして十数名がお手伝いし、学生も子どもたちと一緒に野外活動を行ったり指導したりと様々な経験ができる場となっています。学生にとってもボランティア活動で教わることが多く、1年間、同じ子どもたちと一緒に活動を行っていくボランティアでは、「名古屋女子大学のおねえさん」としての自覚が生まれ、良い影響として表れています。

(文責:吉川直志)

とこなめ焼協同組合との協定による 「茶器評価および緑茶文化啓発支援」: 平成30年度の活動 (PBL) を終えて

今年度は、2つの課題を設定し活動しました。

○家政学部

第1の課題は「『常滑焼茶器で淹れたお茶はまろやかで美味しい』を科学的に証明する」です。本学食物栄養学科食品化学ゼミの学生が卒業研究として取り組み、材質の異なる8種類の急須を用い、味や色に関係する10種類以上の成分を分析しました。その結果、常滑焼急須で淹れた緑茶は、他の材質の急須を用いた場合と比べ渋苦味成分が少なく、旨味成分が多い、また色調が好ましい若葉色という特徴、つまり「まろやかで美味しい」という感覚に影響する味質及び視覚因子についてのエビデンスを得ることができました。

第2の課題は、「『急須でお茶を淹れ風味を味わい、豊かな感性や情操を養う』 文化を継承する」です。この課題はとこなめ焼協同組合が中心となり、常滑焼に ついての講演会と常滑焼急須で淹れた緑茶の試飲会を本学で開催しました。参加 学生は馥郁とかおるお茶を味わいながら、先人達によって育まれてきた奥深い心 情の一端に触れ「文化を繋ぐ」大切さを感じ取っていました。(文責:山澤和子)



卒業研究で得た成果を「急須の材質と緑茶 浸出液成分について」と題して、本学学生 が報告しました。(平成31年2月13日(水) とこなめ焼協同組合会館にて)



とこなめ焼協同組合理事長を講師に、講演「愛知の伝統工芸"常滑焼"を知る」を開催し、同時に緑茶の試飲会も催しました。(平成30年7月27日(金)本学にて)

○ 文学部

平成30年度6/9~2/23(計13回)実施

名古屋土曜学習プログラム

児童教育学科では平成29年度より名古屋市教育委員会の「土曜日の教育活動推進事業」における名古屋土曜学習プログラムに連携・協力して、教員がそれぞれの専門とする研究を基にした普段の授業では体験できないような児童がわくわくする体験授業を、小学校の土曜授業として提供しています。また、土曜学習いきいきサポーターとして学生ボランティアにも積極的に加わってもらい、学生は土曜授業の補助として児童と関わる機会を多く持っています。児童と関わるボランティア経験を希望している学生にとって土曜日の午前に行うこのプログラムは良い機会となり、1年間通して参加することで、児童の姿、児童の反応や成長を直接見ることができる貴重な経験の場となっています。平成29年度は市立豊岡小学校と市立桜小学校で、平成30年度は、市立川中小学校と市立二城小学校(内1回は鳥羽見小学校と合同)でそれぞれ授業を提供しています。次年度も、3つの小学校で授業提供を行う予定です。

(文責:吉川直志)





体験授業の様子(左:豊岡小学校体育館、右:鳥羽見小学校体育館)

クリーンキャンペーン

今年度も1年間を通して地域貢献活動として「クリーンキャンペーン」を実施 しました。

クリーンキャンペーンとは瑞穂区役所地域力推進室が行う毎月25日の区内清 掃活動に本校生徒会活動の一環として参加するものです。毎月25日といっても、 定期試験中や長期休暇などを除くと年間で4回程度しかできません。今年度は6 月、9月、10月、1月に実施できました。運動部と各クラス美化委員(一部代 表議員)が参加します。

毎回生徒たちは朝8時から区役所前で職員の方のお話を聞いた後、いくつかの ルートに分かれて学校までの道路に落ちているゴミを拾っていきます。特に1月 は凍える中での活動となるなか、充実感を持って取り組んでいます。ゴミの中に はタバコの吸い殻をはじめ飲みかけのペットボトルもあり、清掃活動をしながら 公共マナーを守ることの大切さを生徒たちも痛感している様子でした。

(文責:江本幸司)





瑞穂区役所にて

活動の様子

毎月1回実施

特別養護老人ホーム ボランティア

毎月1回、八事にある老人施設でボランティア 活動をさせていただいています。長いお付き合 いでもう20年以上となり、いつ伺っても清潔で、 落ち着いた雰囲気の施設です。そこでは、主に清 掃活動や医務用品の準備、高齢者の方々とのお話 し相手などをさせていただいていますが、この日 は毎年恒例の夏祭りでしたので、綿菓子作り、冷 麦や天丼の提供をお手伝いしました。ご利用者の ご家族も大勢来苑され、賑やかで皆さん楽しげで した。

このような信頼される施設で長年活動すること ができ感謝しています。

(文責:神谷弘子)



活動の様子

短期大学部

平成30年11月23日(金•祝)実施

地域ボランティア活動 スポーティブ・ライフ in 瑞穂

今回は、11月23日(祝)に開催されました名古屋市教育委員会主催のスポー ツイベント「スポーティブ・ライフ in 瑞穂」に学生有志メンバーでブース出展 を企画し、取り組みました。短期大学部保育学科では、1年次より地域のボラン ティア活動に参加する機会を設けており、毎年、参加している取組となります。

紹介するイベントは、パロマ瑞穂スポーツパークで開催され、主旨として「地 域の子どもから大人までがスポーツ・運動に親しむ機会を楽しむ」が掲げられて います。参加学生は、授業で学んだ保育に関する知識、技術を参考として「身近 にある材料で作ってからだを動かして遊べるおもちゃづくり」をテーマとして、 実際に子どもたちと制作をおこなったり、からだを動かしたりする場所を提供 し、270名ほどの子どもたちが本学のブースを体験されました。学生は、就学前 後の幼い子どもたちに対しても親切に関わり、今回のボランティア活動を通して 校外実習に臨む前に貴重な体験となりました。

(文責:藤巻裕昌)







子どもたちと一緒に制作する学生たち

○ 短期大学部 平成30年10月21日(日)実施

mamacafe ハロウィンイベント

生活学科の「地域貢献基礎演習」では、学士力 養成および地域社会への貢献を目的として様々な 地域貢献活動を行っています。その一つとして、 食をテーマにした貢献を目的とし「mamacafe ハロウィンイベント」を実施しました。瑞穂区の 子育て支援施設 mamacafe にて、カード作りと かぼちゃを使ったレシピの展示を行いました。半 年かけて準備や練習を行った成果で地域の人々の 笑顔を見ることができ、学生たちにとって良い経 験となりました。

(文責:石﨑智恵利)



活動風景

○学生支援センター

児童文化研究部 「かけっこ」による活動

児童文化研究部(かけっこ)は、名古屋女子大学公認サークルとして、40年の歴史を持つサークルです。将来保育者を目指す学生が中心となり、保育園や乳児院、また地域の子ども会の行事で人形劇を披露したり、子どもと一緒に楽しむゲームを企画したりしています。12月には「ななくさ保育園」で人形劇を上演しました。今後も、子どもたちの笑顔を楽しみに練習を重ね、ゲームや紙芝居を通じた子どもたちとの交流を続けていきます。



児童文化研究部(かけっこ)の学生たち

○ 図書館

丸善ゼミナール トークイベント

大学図書館では平成26年度より、学生による図書館 サポーターを創設し活動を行っています。サポーターは 館内資料の案内や学内での催事を通しての読書広報活動 のほか、他大学のサポーターとの情報交換、リサイクル 図書収益金の国際ボランティア団体への寄附など、学外 での活動も展開しています。他大学交流では、平成28 年度より、市内三つの女子大学(金城学院大学、椙山女 学園大学、名古屋女子大学)と三女子大学サポーター



イベント案内と 学生作成の POP

連携『G3(ジー・スリー)』(Girls of three)を結成し産学連携活動や女子大間での交流を深めています。平成30年度は『G3』交流会で作成、展示した「広辞苑」のPOPがきっかけとなり、丸善が主催する丸善ゼミナールと岩波書店との共催で11月24日に、講演&トークイベント「広辞苑を語る、広辞苑で遊ぶ」を丸善名古屋本店で開催しました。当日は、岩波書店広辞苑編集部副編集長の平木靖成氏による講演と、



平木靖成氏とのトークセッション

学生が作成した POP から広辞苑や辞書 に関するトークセッションを行い、満席 の参加で盛況のうちに終了しました。参 加学生には辞書の編集について直接話を 聞くことで、知見を深めるとともに、書 店との協働企画に参加することで貴重な 社会経験を得る機会にもなりました。

(文責:尾崎友子)

○越原記念館

平成31年2月14日(木)実施

「瑞穂区まちかどコンサート」に 越原記念館が協力 100名が集う

(文責:植田あや)

平成31年2月14日(木)、13:30-14:45、越原記念館ホールにて、瑞穂区役所主催の「まちかどコンサート」に越原記念館が協力し、「あなたに贈るバレンタイン〜想いを音楽にのせて」をタイトルに演奏会を実施しました。この事業は区内随所において音楽を通して、地域の方々、学校や企業などの交流の機会とにぎわいづくりを図るものです。

今回、第1部の名古屋女子大学演奏では文学部児童教育学科音楽ゼミ3年生の13名による、トーンチャイム演奏「虹の彼方に」でオープニングを飾りました。続いて本学教員2名が「宵待草」「すみれの花咲く頃」など歌唱4曲を披露し、第2部はTSUKAMOTO SISTERS 3人によるサクソフォーンの演奏でした。全12曲の調べは100名の参加者を魅了しました。

演奏後は参加者に2グループに別れていただき、記念館の企画展「乙女たちのよそおうこころ」を中心に1時間程熱心に展示解説を聞かれ、この日特別に公開した本学園創立者の越原春子先生が創案した「名古屋帯」に多くの関心が寄せられました。

地域の方々へは本学園の多彩な取り組みを一層ご理解いただき、また学生にとっても授業成果を発表できる好機となりました。 (文責:鈴木孝子)

まちかどコンサート 13:30-14:45

第1部 名古屋女子大学演奏

オープニング トーンチャイム

文学部児童教育学科学生

歌唱(ソプラノ) 岡(坪井)眞里子・河合玲子 伴奏:伊藤充子・白石朝子

第2部 TSUKAMOTO SISTERS サクソフォーン演奏

企画展・写真展・常設展-----14:50-15:50

展示解説:遠山佳治・鈴木孝子



編集後記

地域連携ニュースレターも第2号 となりました。ご協力頂きました 多くの皆様に厚く感謝申し上げま す。地域貢献として学園全体で様々 な活動が行われています。地域に根 付いた越原学園の存在を示すだけで なく、学園自体がより活気を持つこ とできています。また、連携から新 たな発見もありました。瑞穂区役所 との連携事業の育休復帰応援講座で は、働く女性支援として実施しまし たが、ご夫婦での参加がありお父さ んへの支援が女性支援にもつながる という思いを持たせてくれました。 それぞれの連携で得るものがあり、 その中で予想外の新しいものも生ま れていると感じています。地域連携 ニュースレターでは今後も、こうし た活動を紹介すると共に、新しい動 きをお伝えしていきます。

(文責:吉川直志)

学校法人越原学園 地域連携 NEWSLETTER vol. 2 発行日 平成31年4月30日

発行·編集 名古屋女子大学 総合科学研究所

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40 TEL052-852-1111 (代)